

令和 6 (2024) 年 11 月 11 日(土)～12 月 10 日(日)

岐阜市人権尊重推進強調月間に開催した主な催し

’24 人権の広場 11/17(日)

岐阜市文化センター小劇場

第 33 回「人権の広場」を開催しました。

第 1 部では、令和 6 年度岐阜市小・中学生募集
「人権に関する作文」の入賞(最優秀賞、優秀賞)者への
表彰及び作品の発表を行いました。



【最優秀賞】

長森西小学校	精華中学校	日野小学校	方県小学校	厚見中学校	精華中学校
6 年	2 年	6 年	6 年	1 年	2 年
日比 祐依乃さん	國井 咲結さん	三輪 奈々花さん	矢富 紗莉さん	平光 穂乃佳さん	寺井 琴音さん

【優秀賞】

<参加者の声>

- 市長さんから子どもたちが賞状をもらうという機会があることがすばらしいと思います。今後ともぜひ続けてほしいです。
- 日頃から、人権感覚をもっていたい、偏見はしないと思ってはいるが、人権の広場で純粋な子どもの感覚に触れると、自分はまだまだだと思えることができる。1 年に 1 回、自分の感覚の定期検診だと思って、来年も足を運びたいです。ありがとうございました。
- 小中学生の応募の数には驚きでした。関心の深さを知りました。
- 作文を通して子どもたちは人権について考える機会となり、今後も継続してほしいです。

第 2 部では、「幸せってなんだっけ?～こどもたちの笑顔を守るために私たちにできること～」と題して、一般財団法人 児童虐待防止機構 オレンジ CAPO 理事長 島田 妙子 さんにご講演いただきました。自らの生い立ちや経験をもとにして、日ごろから心がけてみえる考え方や心のもちようについて、明るく、楽しくお話をされました。

<参加者の声>

- 子どもも大人も幸せになるために、自分の思いを言葉にして発することが大事だと思いました。島田先生の話、最高!!
- 今回の話、とてもわかりやすかった。毎日の生活を考えていこうと思います。
- 今回出席した人は、人権についていろいろ考えたり思ったりしていると思う。多くの人にこのような催しがあることを知ってもらうことが大切だと思う。
- わかりやすく、とてもよい話だった。1 つ 1 つが実体験の話なので、よく内容が入ってきました。話し方が関西人らしく面白かったです。
- 講演会もとても貴重なお話をしていただき、今後の生き方に生かしていきたいと思いました。
- 島田先生の講演、とても勉強になりました。ありがとうございました。教科書の話ではなく、“生の声”はとても大切だと思いました。
- 生活におわれて、人との関わりや自分の心について振り返る時間がなかったけれど、今日、いい時間をいただきました。
- 私と周りの人の幸せの為に人権について考えるチャンスをみのがさず、積極的にこういう会などに参加したいです。
- セロトニンを出し、毎日明るい 1 日を過ごしたいです。
- 今日の講演はとっても良かったです。つらい思い出がこのような笑いをとり入れたお話に代わっていくことに感謝しました。



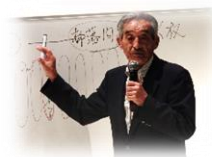
心の輪講座 2024 11/21(木)、28(木)、12/5(木) ぎふメディアコスモス みんなのホール

心に潜む「偏見」や「こだわり」をみつめ直し、差別をなくそうと努力する人権学習ボランティア団体
“心の輪の会”と共催で、「心の輪講座 2024」を開催しました。

回	月日	演題・講師	参加人数
1	11月21日(木)	人権啓発ビデオフォーラム「大切なひと」を見て コーディネーター:心の輪の会会長 市講師団 中村 正信さん	48
2	11月28日(木)	テーマ「一人ひとりの人権が尊重される社会を目指して ～部落差別(同和問題)の理解と心構え～」 講師:岐阜県人権啓発センター 人権啓発指導員 奥田 悟さん	80
3	12月5日(木)	テーマ「知ってほしいな 聞こえづらい人のおもい」 講師:特定非営利活動法人 ぎふ難聴者協会 加藤 千津子さん	71

〈参加者の声〉

- DVD「大切なひと」に涙しました。こんなにも心に訴えてくれた。多くの人にも観てもらいたいです。子どもたちに教育する上で DVD や絵本を活用することはいいことだと思います。それぞれの人がいろんな思いを共感することは大切です。自分事としてとらえる。一歩踏み出す勇気を。講座を通していつも考えさせられます。
- 近年ネット社会が当たり前になってきて、発信や拡散される情報が増えている。その情報を受信するときには、正しく受け取り、その裏にある、間違った情報などを自ら発信したりしないよう、各人が強く意識する必要があると思いました。「差別されない権利」という個人を守る強い権利がある。人は簡単に人を傷つけ、またその反面、傷つけられたりする。私は常々、自分の家族にも「自分がされたいやなことは絶対に他人にはするな」と教えている。人の尊厳を大事にするべきと思う。
- 部落差別(同和問題)は、まず「知る」という事から。今まで差別を認識していなかった自分を考えさせられました。歴史的背景や最近ではネットの中で増しているような雰囲気さえあることを知りました。自分が、この問題に直面した時に、正しい考えを持てるのかわからないと思いました。まだまだいろんなことを知る必要があると思いました。
- 差別が続いている状況なら、ひとつひとつ対処していくしかないと思います。間違った情報などは時間をかけてでも対処して、正しい理解を深めていくしかないと思います。
- 同和問題の研修は、何回か受けましたが、やはり正しく知って、自分で考え、判断していかなければいけないということをいつも教えられます。私たちは子どもたちに正しく伝えていかなければいけないと思います。常に自分事としてとらえていきたいです。
- 難聴について知らない人がたくさんいるので、今回のような講演をたくさんして、みんなに知ってもらおうと、もっといろいろなところにヒアリンググループなど置いてもらえるかなと思いました。とても大切な話を聞けて良かったです。
- 加藤さんはある日、突然聞こえなくなり、中途聴覚障がい者になったとのことでした。お話もとてもうまく、聞き取りやすく、見た目では全く分かりません。身近に障がいのある方がいないと、障がい者に気づかないかもしれません。つらい思いをされている方がいるのかもしれないし、自身もなりうる。手術をし、要約筆記派遣などで、再び、社会参加できるようになり、明るくなったとのこと。誰もが生きやすい社会になるよう、今日の講演会のように、知る機会が増え、何か力になれるといいと思いました。(子どもたちは、学校で学ぶが、大人のほうが知らないかも)
- 難聴は周りの人に分かりづらい。分かりづらいときは、「もう一度言って」、「ゆっくりと話をして」と頼みます。この時、相手がどこまで理解してくれているかは分かりませんが、要望に応じた話し方をしてくれる人が多いので、助かっています。自分の状況を相手に伝えることは大事です。高齢になると難聴障がい者になる人が多くなります。自分も補聴器を付けているのですが、それを相手に伝えるようにしています。互いの理解が大切ですね。



中村 正信さん



奥田 悟さん



加藤 千津子さん

人権パネル展 11/19(火)~22(金) ぎふメディアコスモスドキドキテラス

より多くの市民の皆様にも、人権について感じ、考える機会を持っていたくため、「人権パネル展」を開催しました。

人権擁護委員、更生保護関係団体(岐阜山県保護区保護司会・岐阜市更生保護女性会・BBS 会)、岐阜市障害者生活支援センター、風の芸術村、アートフィールドなどの人権関係団体の協力を得て、人権啓発に関わる展示を行いました。

11月22日(金)には「人権広報大使ミナモ委嘱式」が行われました。



会場に訪れた方々が、展示されたパネルや絵を真剣な表情で見回っていました。

立ち止まって見ることで、さまざまな見方や考え方、感じ方にふれ、新たなことに気づくことができる場になったのではないのでしょうか。

人権啓発フェスティバルinぎふ 12/7(土) マーサ 21

岐阜地方法務局、岐阜県人権擁護委員連合会、岐阜県、岐阜市から構成する岐阜県人権啓発活動ネットワーク協議会で「人権啓発フェスティバルinぎふ」を開催しました。